

医療機関が患者情報共有

天草郡市医師会は地域の医療機関をネットワーク回線で結び、画像データや検査など患者情報を共有した遠隔医療システム「あまくさメディカルネット」の運用を始めた。検査の重複など患者負担を軽減し、治療の効率や質の向上を図る。地域全体でのネットワーク構築は全国的にも珍しく、県内では初めて。

天草郡市医師会 治療効率化へ ネットワーク

天草地域(天草市、上
天草市、若北町)は熊本
天草市、若北町)は熊本
都市圏から遠く、慢性的
な医師不足や住民の高齢
化などの課題を抱える。
県が2009年に策定し
た地域医療再生計画の一
つで、総事業費は約計5
億7千万円。医療体制が
脆弱な地域のモデルケ
ースとして期待される。
天草地域医療センタ
ー(天草市)を拠点病院と
る。

位置付け、公立病院など
5中核病院とCTやMR
1などの画像が相互に参
照でき、患者の救急搬送
の判断などに役立てる。
また、ネットワークに
加盟する医院や医療機
関は同医療センターが持
つ処方箋や診療内容と
天草地域にとって有効な
システムだ。将来的には
介護などとも連携した
「と話している」。

8月6日にシステムの
稼働を始め、9月末現在
で、地域の半数を超す
52医療機関が加盟して
いる。さらに加入を促
す。

同医療センターの原由
和則院長は「面積の広い
天草地域にとって有効な
システムだ。将来的には
介護などとも連携した
と話している」。

あまくさメディカル ネットのイメージ

